

さいたま市食肉中央卸売市場・食肉処理場の 「廃止」を考える学習会



現代人には欠かせない、大事な施設

私たちの食生活に欠かせない“食肉”は、生産現場から食肉処理場・卸売市場などを経て消費者に届きます。食肉処理場は民間の施設もあれば、行政が運営している公設もあります。全国には10カ所の「食肉中央卸売市場」があります。その一つを運営しているさいたま市が「廃止」を決定しました。しかし、決定には関係者へ事前の相談もなく、突然のことで、不安が広がっています。

首都圏には、東京（芝浦）、神奈川（横浜）と並び、さいたま市の中央卸売市場があることで、「建値（たてね）市場」として食肉価格の乱高下を防ぐ重要な役割を果たしています。

廃止となると、生産者、市場従事者、食肉業者、小売・飲食業者、そして消費者まで広範な人々への影響が懸念されてます。この学習会では、初めての方も含めて、あまり知られていない中央卸売市場・と畜場、さいたま市場の役割について、みんなで考える企画です。



2026年

とき

2月27日（金）

18：30～20：00

ところ

浦和コミュニティセンター

第13集会室

さいたま市浦和区東高砂町11-1 パルコ10階

その他

資料代 500円



さいたま市食肉中央卸売市場・と畜場の廃止問題を考える会

問い合わせ：埼玉県農民連 熊谷市押切 2540-2 TEL：048-536-5960 mail：info@nouminren.ne.jp

え？“廃止” この先どうなるの？



畜産関係者の声



養豚農家



年間約 8000 頭の豚の全量をさいたま市場に出荷しています。ブランドの「香り豚」は埼玉を中心にとっても人気ですが、この**出荷先が全くなくなってしまいます**。

一方的に廃止を決定し、廃止後の出荷先などにも関与しないと説明する市の対応は許せません。さいたま市場でと畜する **6 万頭の行き先がなくなれば、この施設を使っている人も影響が出る**と思います。飲食店など地域産業にも影響します。

私が、さいたま市の中央卸売市場に全量を出荷する理由は、**個体別の重量が正確に計測されて、公正なセリであることから、安定経営にもつながるから**です。県の畜産振興のためにも、廃止は絶対にやめてほしいです。



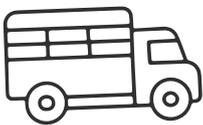
酪農関係者



市場が閉鎖されると、搾乳牛の行き場が少なくなると心配です。乳牛のと畜は手間もかかり、枝肉も安値のために、民間では敬遠されることがあります。公設・公営の中央卸売市場は、**一頭からでも受け入れて、公正に取引できるので、酪農家には重要な施設**です。出荷が停滞して病気になって投薬すれば、休業期間も発生します。餌代など経費も余計にかかります。廃止はとても困ります。



家畜商



突然の廃止決定に、業界内はとても驚いています。廃止後に代わりとなる場所がないことも問題です。市は「民間が充実している」と説明しますが、**県内の民間と畜場も老朽化しており、受け入れる余力も多くはありません**。と畜場の能力や、食肉・内臓には限りがあります。これまでさいたま市で取引してきた業者は、**出荷先も仕入れ先もなくなり、事業が立ち行かないと、困っています**。

そして、中央卸売市場は相場の日安となる「**建値市場**」であり、価格形成がどうなるのか、さいたま市場を使用していない民間のと畜場で相対取引している関係者にも不安が広がっています。価格が乱高下すれば、食肉業界、消費者にも影響する問題です。

経過

2017 年度

施設の老朽化と付加価値創出のため
移転計画の検討を開始

2019 年度

移転先決定 4 候補の中から見沼区宮ヶ谷
塔に決定。岩槻 IC 近隣等（都市経営戦略会議）

2021 年度

移転先が軟弱地盤であることから、
住民らの反対運動も始まる。

2025 年

〔基本計画策定〕一大ミートランド構想
道の駅等複合施設を同時に整備

6 月、9 月

市議会などに移転の遅延を報告
事業は予定通り実施と説明（市）

移転し機能強化を目指す〔基本計画〕2021 年

中央卸売食肉市場は、全国に 10 力
所しかない大変重要な施設であるこ
とから「**廃止**」は困難。「**移転再整備**」
で、輸出対応の施設整備を進める。



さいたま市

と、市は言って来たのに…

11 月 19 日 「**移転の中止、事業は廃止**」を発表

生体産地別と畜頭数（2024 年実績）代表的な県

	和牛・交雑種	乳牛	豚	計（頭数）
埼玉県	1,112	774	27,842	29,734
栃木県	607	3,159	13,937	17,789
群馬県	736	940	7,578	9,254
宮城県	-	4	2,396	2,400
茨城県	140	812	1,187	2,141
北海道	197	946	-	1,148
福島県	365	508	40	921

（ 2024 年の取り扱いの総頭数は、6 万 5440 頭です。）

農林水産大臣も廃止に反対

卸売市場は、公正な取引の場として、高い公共性を果たす必要があり、**廃止ありきではなく、卸売市場の役割を踏まえ、市場内外の関係者との合意形成を丁寧**に図ることなど、現場に寄り添った対応を指導した。



鈴木農水大臣

岩淵友参議院議員の質問に応じて 2025 年 12 月 18 日